



## 診察室

## ざくばらん

## 一眠りしたら

## 痛みで目覚め

## 睡眠時頭痛

ただでさえ、暑くて寝苦しい夜が続くとこの間に。やっと眠れたと思ったら、頭が痛くて目を覚ます。「まるで地獄だ」とは、古い言い方をする。

58歳のGさん。これまでも、疲れた時に、後頭部が痛くなることはあった。が、この頃の頭痛は違う。寝付いて3時間くらいして、こめかみを中心に締め付けるような頭痛が続く。多くは、1、2時間で治まるらしい。ひどい頭痛ではない。だが、何日も続くのだ。「笑点の円葉だって、脳腫瘍が見付かった。ひょっとして」と浮かぬ顔だ。

ま、ワッシーらは、患者さんの話を聞いただけで、どんな頭痛かだい

たい分かる。Gさんの頭痛は、まずは脳腫瘍なんかではあるまい。日本人には比較的稀な「睡眠時頭痛」ではなからうか。50〜60歳の女性に多い。が、男性にもみられる。男性で夜中に多く起きる頭痛といえば群発頭痛もそうだ。が、睡眠時頭痛は、群発頭痛ほど痛みは激しくない。また、涙や鼻水を垂らすなどの自律神経症状を伴わない。片頭痛のように、吐きもしない。音や光に過敏でもない。が、別名「目覚まし時計頭痛」と呼ばれるように、毎日夜中に起こるのでツライ頭痛だ。

で、さっそく頭のMRI（磁気共鳴画像装置）の検査をする。と、書いたら、読者は、診断が付いたのに、何故まだ検査が必要なのか？と思うだろう。必要なのである。頭痛というのは、予想もできないことが原因で起きることがある。そうだ。頭痛がない場合だってあるのだ。円葉師匠なんか、気分が落ち込むという症状だけだった。

患者さんの訴えや診察だけでは、診断は不十分なのだ。脳神経外科医は、じっくり、疑い深い性格のほつがよい。とこのことで、本当に頭の中には異常がないと分かって、やっと、ワッシーも安眠できる。

（石黒修三 しいしんクリニック

・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身）



イラスト・野畑桃花